

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	・授業完全を繰り返し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。 ・タブレット端末を有効活用して、知識・技能の定着を図る。 ・思考力・判断力・表現力等を高めるために、SDGsの推進と意識づけを図る。	中間評価		最終評価
		・本時の目的を意図的・計画的に示す学習指導を展開するとともに、小規模校の利点を生かし生徒の変容をきめ細かく捉え、指導と評価の一体化を図る。 ・授業を受ける姿勢（授業規律、聞く態度、発言の仕方等）を徹底し、落ち着いた学習環境を整える。			
環境作り					

■ 教科の取組内容

教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）	最終評価（2月）
国語	<p>調3学年は新宿区学力調査の「漢字を読む」において、問題の内容別正答率が95.4%で、全国平均正答率よりも5.8ポイント上回った。一方で領域別正答率の「書くこと」は全国平均正答率よりも12.3ポイント下回った。</p> <p>調2学年は新宿区学力調査の「説明的な文章の内容を読み取る」において、全国平均正答率よりも20ポイント上回った。</p>	<p>・3学年は、書くことに対する苦手意識をなくし、日々の授業の中で定期的に文章を書くことに取り組みせる活動を設定することが今後の課題である。</p> <p>・2学年は自分の言葉で文章を書くという取り組みに苦手意識が見られるため、問いに応じた適切な言葉を選択し、書くという活動の充実を図っていきたい。</p>	<p>・3学年は短い作文に取り組む活動から始め、都立高校入試を見据えて200字作文などにも定期的に取り組みせていく。</p> <p>・2学年は定期的に漢字や文法の小テストを行うとともに、読書活動や情報収集活動を設定し、文章から読み取った内容を精査して自分の言葉でまとめる練習を積み重ねていく。</p>		
社会	<p>調3学年は、新宿区学力調査において、「基礎」の正答率が全国平均を0.4ポイント上回った。また、「活用」の正答率は全国正答率を8.3ポイント上回った。</p> <p>調3学年では、全国平均正答率を9.3ポイント上回っている。</p> <p>調2学年は全国平均と比べ、「基礎」は1.7ポイント下回ったが、「活用」では2.7ポイント上回り、全体としては0.4ポイント下回った。領域別正答率では、全国平均と比べ、「地理」は3.7ポイント上回ったが、「歴史」では5.1ポイント下回った。観点別正答率では、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」では全国平均を上回ったが、「知識・技能」では1.0ポイント下回った。</p>	<p>・3学年は、基礎基本の定着が不十分である生徒も一定数みられるため、受験へ向け、タブレットのドリルなどをさらに活用を図っていきたい。</p> <p>・3学年は、活動型授業の中で思考をする中で知識を身につけるとい流れが定着したと考えられ、継続していく。</p> <p>・2学年は、歴史と基礎事項の習得が不十分であると考えられるため、歴史の復習に力を入れる。</p>	<p>・3学年は、基礎的・基本的な用語が定着しつつある。引き続き、適宜小テストを行い授業内での確認を行っていく。</p> <p>・3学年は、ディベートや調べ学習に発表など活動型授業の取り組みを一層充実させ、必要に応じて個別の声掛け・支援をさらに行っていく。</p> <p>・2学年は、地理歴史共に基礎事項の定着を目指して、授業内容の定着の確認として、タブレット端末のデジタルドリルに取り組みせる。</p>		
数学	<p>調2学年は、新宿区学力定着度調査の結果では全国平均より3.6ポイント上回っており、いずれの領域についても全国平均を上回った。</p> <p>調3学年は、新宿区学力定着度調査の結果では全国平均より11.4ポイント上回った。</p>	<p>・1学年は、数学に苦手意識をもつ生徒が多く、分からない問題を自分の力で解決することが難しい生徒がいる。</p> <p>・2学年は、家庭学習を継続して行う意欲や、学習を調整する力が十分に身につけていない生徒がいる。</p> <p>・3学年は、数学に苦手意識をもつ生徒が少なく、授業にも前向きに取り組んでおり、特に大きな課題は見られない。</p>	<p>・単元ごとに、課題プリントを出し、その成果を見取ることで、それぞれの生徒がどこまで内容を理解しているかを教師が把握し、指導に活かす。</p> <p>・基礎的な計算などにおいて、既習事項と十分に関連付けながら授業を展開していく。</p> <p>・ノートの記述、問題集の記述を小まめに見取ることで、生徒の学習状況や取り組み方を把握し、助言・支援していく。</p>		

理科	<p>調 2 学年は、新宿区学力定着度調査の結果で、全国平均正答率を 2.0 ポイント、新宿区平均正答率を 4.5 ポイント上回った。また、新宿区学力定着度調査すべての領域で全国平均、新宿区平均を上回った。</p> <p>調 3 学年は、新宿区学力定着度調査の結果で、全国の平均正答率を 4.0 ポイント、新宿区平均正答率を 2.8 ポイント上回った。また、すべての領域で全国平均、新宿区平均を上回った。</p>	<p>・2 学年は、理科への関心も高く授業に積極的に取り組んでいる。これが、新宿区学力調査の結果がすべての領域で平均を上回っていることにつながっている。ただし、「物質の状態変化」の単元で力を補充する必要がある。</p> <p>・3 学年は、基礎学習を多く行った成果が表れた形となった。ただし「生物と細胞」の単元で力を補充する必要がある。</p>	<p>・2 学年、3 学年ともに学力調査で判明した定着が乏しい単元に焦点を当て、今一度学びの確認を行うことで確実な知識・技能の定着を図っていく。</p> <p>・単元末の探究活動など幅広い視点で学習に積極的に取り組むことで深い学びにつなげ、理科への関心を高めていく。</p>		
英語	<p>調 3 学年は、新宿区学力定着度調査の結果によると、4 技能を使って表現する機会やコミュニケーション活動を増やしたことで、「聞くこと」で特にポイントが高く、全国平均を 17.3 ポイント上回った。反対に、「語形・語法の知識・理解」、「並べ替えによる英作文」など基礎基本の理解がやや低かった。</p> <p>調 2 学年は、新宿区学力定着度調査の結果によると、基礎的なことはよく定着しているが、領域別の「書くこと」において、全国平均は 10 ポイント上回っているが、区平均では 4 ポイント下回った。</p>	<p>・「語形・語法の知識・理解」は、区の平均を下回っているため、基礎基本を定着させる必要がある。</p> <p>・場面を設定し、「書くこと」に重点を置いた帯活動を考え、アウトプットを繰り返し行っていく課題を作っていく。</p>	<p>・2 学年・3 学年ともに、授業の最初の活動（帯活動）を工夫し、前の授業の「振り返りの時間」を確保することで、語形・語法の知識・理解の定着を図る。また、ペアワークなどコミュニケーション活動を通して、即興で対応できる力を身につけ、今年から受験に取り入れられる「中学校英語スピーキングテスト」にも対応できる力を養う。さらに、ICT 機器を活用した復習を行うことで、D 層の引き上げを図る。</p>		

調・・・新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学・・・授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況

※分量は 2 ページ以上となってもよい。